

宝塚・ベガホール of ヨハン・シュトラウス像

宝塚歌劇と温泉で知られる兵庫県宝塚市にヨハン・シュトラウス 世の像(写真)があります。

宝塚はもともと閑静な温泉地でしたが、大正初めに阪急電鉄の創始者小林一三(こばやし・いちぞう)が阪急電車の利用客を増やすため博覧会場やプールなどの娯楽施設をつくったことをきっかけに発展しました。小林は宝塚に劇場をつくって少女たちによる歌劇を上演させましたが、これが後に有名な宝塚歌劇となりました。現在も武庫川のほとりに宝塚歌劇の本拠地となっている大劇場が建っています。

宝塚市は1994年10月にウィーン市第9区(アルザーグルント区)と姉妹都市の提携を結び、以来両市間で交流活動が続けられています。ウィーン市第9区にはオペラファンにはよく知られたフォルクス・オーパー(歌劇場)があり、「劇場の町」という共通点が両市提携の理由の一つになったようです。

そうした縁で2002年3月にウィーン市から寄贈を受け、宝塚市の音楽



専用施設ベガ・ホールに設置されたのがこのシュトラウス像です。像はホールの玄関脇に銀色に輝いて立っており、ヴァイオリンを弾いているその姿はウィーンの市立公園にある有名な像と同じスタイルです。

ベガ・ホールは阪急宝塚線清荒神駅のすぐ側、市の中心部からは少し離れた住宅地にあって市立図書館との複合施設になっています。約370席で「小さくても響きの良いコンサートホール」を理念に1980年8月にオープンし、煉瓦作りのユニークな美しい内装が施され、パイプオルガンも設置されています。国際交流の一環としてウィーンからやって来た演奏家によるコンサートもしばしば開かれているようです。

(2010年2月記載)

葛飾・青砥のヨハン・シュトラウス像



花の蕾に乗った天使たちが頭上で回転し「美しく青きドナウ」を演奏するヨハン・シュトラウス 世

写真のヨハン・シュトラウスの像は京成電鉄青砥駅前（東京都葛飾区）にある「ワルツの塔」というモニュメントです。

これは葛飾区が文化複合施設「かつしかシンフォニーヒルズ」を1992年に建設した際、その一環として、施設へ通じる「シンフォニー通り」の出発点となる青砥駅前に作ったようです。「シンフォニーヒルズ」のコンサートホールは「モーツァルトホール」と名づけられており、玄関口にモーツァルトの像が立っています。葛飾区は、かつてウィーン市長が飛行機内で地元の柴又を舞台とする「男はつらいよ」の映画を見てすっかり気に入りウィーンロケを招請した縁で、87年にウィーンのプロリズドルフ区（21区）と友好都市の関係を結んでいます。「男はつらいよ」第41作「寅次郎心の旅路」（89年公開、マドンナは竹下景子）ではシュトラウスの音楽がふんだんに使われウィーンの舞踏会場も出てくることはご存じの通りです。2009年9月末にウィーン市内に「寅さん公園」が完成したのもこの関係によるものです。モニュメント

の像にモーツァルトとシュトラウスが選ばれた理由も、ウィーンを訪れた方ならご存じのようにこの二人がウィーンで最も人気のある音楽家だからではないかと思われま

す。「ワルツの塔」は設置当初、一日4回（9時、12時、15時、18時）頭上に浮かぶエンジェルの電飾が点灯して回転し、カール・ベーム指揮ウィーン・フィル演奏の「美しく青きドナウ」を鳴り響かせたそうですが、その後故障してしまったそうです。足元には像を囲むようにベンチが設えてあり、待ち合わせ場所として利用されているようですが、「ワルツの塔」以外の表示がなにもないため、この像がヨハン・シュトラウス 世だと判らない人が多いかも知れません。

（2009年11月記載）